

午後 試験

全体として、一般論を展開しただけの論述が目立った。出題趣旨から大きく外れたり、問題文を言い換えただけであったりした論述は論外としても、設問の趣旨を十分に理解し、受験者自らの経験や考えを反映するように心掛けてもらいたい。また、論述内容の意味のない重複、不要な空行、専門用語の誤りなどがないように注意してもらいたい。

問 1（シンクライアント環境のシステム監査について）は、最も選択率が低かった。本問の選択者の多くは、シンクライアントの導入、又はその検討に携わった経験をもつと考えられる。設問ア及びイについては、自らの経験を踏まえた具体的な内容の論述が多く見られた。しかし、設問ウで監査手続を適切に論述している解答は非常に少なかった。監査の観点や監査手順だけ、又はリスク対策だけの論述、監査について何も触れていない論述などが散見された。

問 2（システム監査におけるログの活用について）は、内部統制報告制度への対応と関連付けた解答が多かった。設問イで求めた監査目的とログの関係、及び設問ウで求めたログ活用のメリットについては、多くの受験者が論述できていた。一方、設問イで求めたログ入手時の留意事項については、技術的な留意事項を論述している受験者が多く、監査証拠とするための要件を論述できている受験者は少なかった。

問 3（企画・開発段階における情報システムの信頼性確保に関するシステム監査について）は、オーソドックスなテーマであることから最も選択率が高かった。しかし、運用段階における監査についての論述や、プロジェクト管理、個人情報漏えい対策についての論述など、設問の趣旨から外れた解答が目立った。設問イ、ウでは、設問アで述べた情報システムとの関係を踏まえずに、一般的な内容にとどまった論述が多かった。設問ウでは監査実施上の留意点についての論述を求めたが、監査手続だけの論述も多く見受けられた。